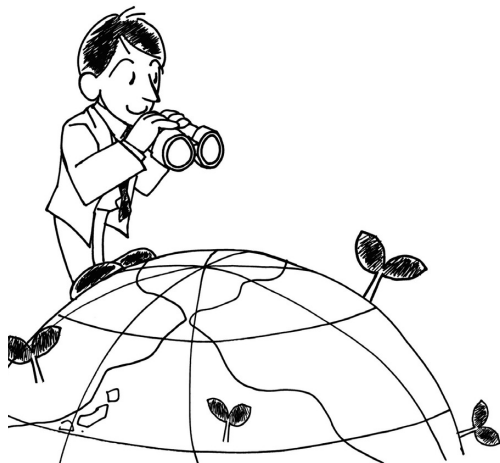


セゾン・バンガード・ グローバルバランスファンド

追加型投信/内外/資産複合



交付運用報告書

第9期（決算日 2015年12月10日）

（作成対象期間 2014年12月11日～2015年12月10日）

第9期末(2015年12月10日)	
基準価額	13,406円
純資産総額	107,188百万円
第9期	
騰落率	△1.1%
分配金(税込)合計	－円

- ・騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入しております。
- ・純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

○交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しております。

○当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、下記の手順で閲覧・ダウンロードいただけます。

＜閲覧方法＞

右記URLにアクセス⇒「ファンド情報／運用状況」⇒「レポート」⇒「運用報告書」

○運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、右記お問合せ先までお問い合わせください。

受益者の皆さまへ

平素は「セゾン・バンガード・グローバルバランスファンド」に格別のご愛顧を賜り、厚く御礼を申し上げます。

当ファンドは2015年12月10日に第9期決算を行ないましたので、当期の運用状況をまとめております。

当期間も信託財産の長期的な成長を図ることを目的とした運用を、変わらずに行って参りましたこと合わせてご報告申し上げます。

今後も、皆さまの長期投資の充実のため、引き続き努めて参りますので、より一層のお引き立てを賜りますよう、お願い申し上げます。



セゾン投信

■お問合せ先

セゾン投信株式会社

〒170-6037 東京都豊島区東池袋3-1-1 サンシャイン60 37F

【ホームページ】 <http://www.saison-am.co.jp>

【電話番号】 03-3988-8668

【営業時間】 9：00～17：00（土日祝日、年末年始を除く）

ごあいさつ

「セゾン・バンガード・グローバルバランスファンド」の第9期は、世界の株式市場全体で当期を通じて若干のマイナスになったことを反映して、当ファンドも△1.14%とファンドの成長には至らなかった1年となりました。

このファンドの運用ポリシーは、ひたすら地球経済全体の滔々たる長期的安定成長軌道の流れに常時自然体で委ねながら、ゆったりのんびりとお金を育んで行くコンセプトであり、実体経済自体は想定内の経済成長を堅持する安定した環境でしたが、株式市場は過去2年あまりの右肩上がりトレンドから踊り場に入って、とりわけ夏場以降に上げ下げの振れ幅が大きく変化し始め、決算期を迎えたわけです。

決算期が示すデータはあくまでそうした相場のランダムウォークの過程を数値化するだけのもので、短期的には決して実体経済の実態を反映するものではありません。従って踊り場の市場環境も長期投資家は悠然と通り過ぎるだけのことでありますが、今期の実体経済と市場価格動向の乖離は、グローバリゼーションの経済成長軌道の担い手が大きな転換期に在ることを示すものと認識すべきでありましょう。

それは、21世紀初頭から地球経済の成長を牽引して来た中国に代表される新興大国の経済構造が、いずれも中進国水準に達したことから停滞期を迎えた一方で、米国経済がリーマンショック後の雌伏の時期を経て、いよいよ景気回復軌道を堅固なものとする、そこに量的金融緩和(QE)政策を強化して日・欧経済が追従するという、先進国経済主導の世界経済に回帰する転換期なのです。

加えてエネルギー革命の本格的到来で、資源価格の低落という新たなパラダイムが、この先の地球経済を構築する上でのコンセンサスとなるなど、これまでの前提が大きく変わる荒れ模様の2016年となりそうです。しかしこうした変化は、次なる成長軌道を決して損なうわけではなく、世界経済はグローバリゼーション第二ステージに入って尚、程良い巡行速度を堅持させて行くでしょう。

当ファンドは、そうしたメガトレンドに自然体で乗って、当期中には純資産残高1千億円を突破し、大型ファンドとしての知名度も確立する中で、引き続き王道たる長期投資を継続させて進んで参ります。

「セゾン号」乗客の皆さまには、長期投資の旅を続けていただいていることに乗務員一同感謝申し上げますと共に、第9期の運用状況を報告させていただきます。

代表取締役社長 中野 晴啓

運用担当者の紹介

セゾン・バンガード・グローバルバランスファンドは、ファンド・オブ・ファンズの仕組みを活用して、世界の優れたリソースを活用しながら、日本の生活者の方の長期の資産形成に資することができるよう、不確実な市場の予想に頼ることなく、長期的なリターンと幅広い分散によるリスクの軽減を重視して、3人のチームで運用を行っています。

代表取締役社長、CIO(チーフインベストメントオフィサー)

中野 晴啓



主な役割 運用の基本的な方向性の指示

運用経験年数 25年

経歴

1987年 明治大学商学部卒業

1987年 株式会社クレディセゾン入社。セゾングループの金融子会社にて債券ポートフォリオを中心に資金運用業務に従事した後、投資顧問事業を立ち上げ運用責任者としてグループ資金の運用のほか外国籍投資信託をはじめとした海外契約資産等の運用アドバイスを手がける。その後、2006年セゾン投信を設立。2007年4月から現職。

運用部長、ポートフォリオマネジャー

瀬下 哲雄



主な役割 運用方針の決定、資産配分比率の決定、キャッシュフローの管理

運用経験年数 9年

経歴

1996年 上智大学経済学部経営学科卒業

2006年 セゾン投信入社、2007年3月のファンド設定時より運用を担当し、2011年よりポートフォリオマネジャー、2014年から現職。

運用部アナリスト

奥山 勉



主な役割 マクロ経済環境の調査、ファンドのリスク分析

運用経験年数 10年

経歴

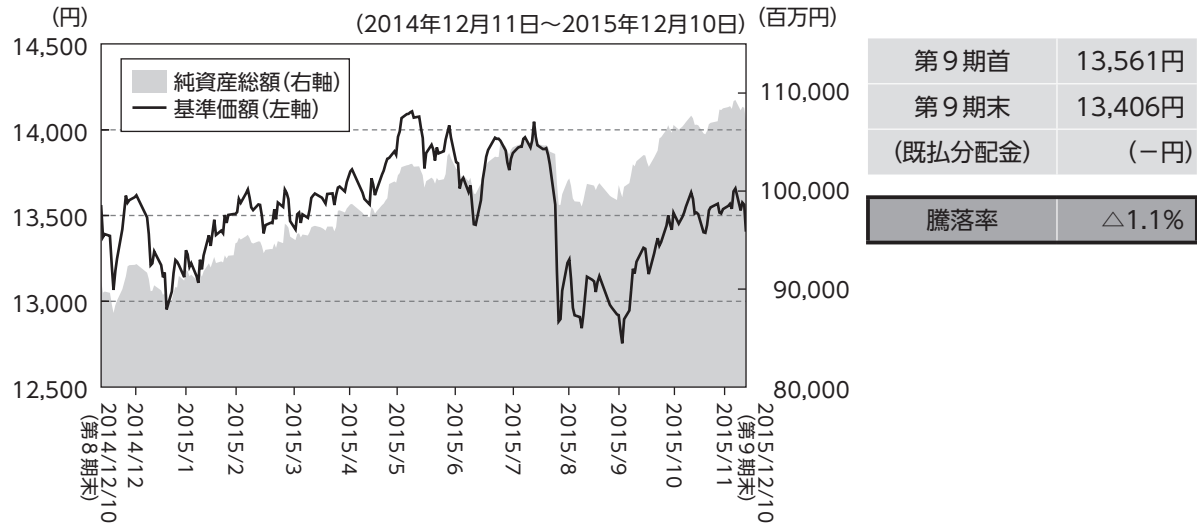
1987年 早稲田大学政治経済学部経済学科卒業

1987年 株式会社クレディセゾン入社。クレディセゾン及びセゾングループでの投資業務等に従事した後、2011年からセゾン投信にて現職。

公益社団法人日本証券アナリスト協会検定会員
中央大学大学院国際会計研究科修了(ファイナンス)

運用経過の説明

期中の基準価額等の推移



- ・当ファンドには、ベンチマークはありません。
- ・分配を行っていないため、分配金再投資基準価額は表示しておりません。
- 表示されている基準価額が、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものとなります。
- ・上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

ここをCHECK！

【基準価額の主な変動要因】

当期は、株式に投資するファンドが新興国と太平洋地域に投資するものを除いて上昇して基準価額の上昇要因となり、債券に投資するファンドが全て上昇して基準価額の上昇要因となりました。為替は対ドルで円安となったものの、対ユーロでは円高となり基準価額の下落要因となりました。

< 基準価額のプラス要因 >

対ドルでの為替レート (円安)
バンガード®・ヨーロッパ・ストック・インデックス・ファンド (ユーロ)
バンガード・U.S.500・ストック・インデックス・ファンド (米ドル)
バンガード・ユーロ・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド (ユーロ)
バンガード・U.S.・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド (米ドル)
バンガード・ジャパン・ストック・インデックス・ファンド (円)
バンガード・ジャパン・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド (円)

期中騰落率
△1.1%

バンガード・パシフィック・エクス・ジャパン・ストック・インデックス・ファンド (米ドル)
バンガード・エマージング・マーケット・ストック・インデックス・ファンド (米ドル)
対ユーロでの為替レート (円高)

< 基準価額のマイナス要因 >

1万口当たりの費用明細

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	(2014年12月11日~2015年12月10日)		
	金額	比率	
(a) 信託報酬 (投信会社) (販売会社) (受託会社)	69円 (38) (25) (6)	0.510% (0.281) (0.185) (0.044)	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 ・ 委託した資金の運用の対価 ・ 交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価 ・ 運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) その他費用 (監査費用) (そ の 他)	0 (0) (0)	0.000 (0.000) (0.000)	(b) その他費用＝ $\frac{\text{期中のその他費用}}{\text{期中の平均受益権口数}}$ ・ 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 ・ その他は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・移転等に要する費用
合 計	69	0.510	
期中の平均基準価額は13,520円です。			

- ・期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。
- ・各項目の費用は、このファンドが組み入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。
- ・財産維持手数料は当期は発生しておりません。
- ・各金額は各項目ごとに円未満は四捨五入しているため、合計が一致しない場合があります。
- ・各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに少数点以下第4位を四捨五入しているため、合計が一致しない場合があります。



ここをCHECK!

<参考情報>

このファンドが組み入れている投資信託証券の運用管理費は？

“運用管理費”の期中平均比率は以下の通りとなりました。

このファンドが組み入れている投資信託証券の運用管理費率(年率)	0.217%
---------------------------------	--------

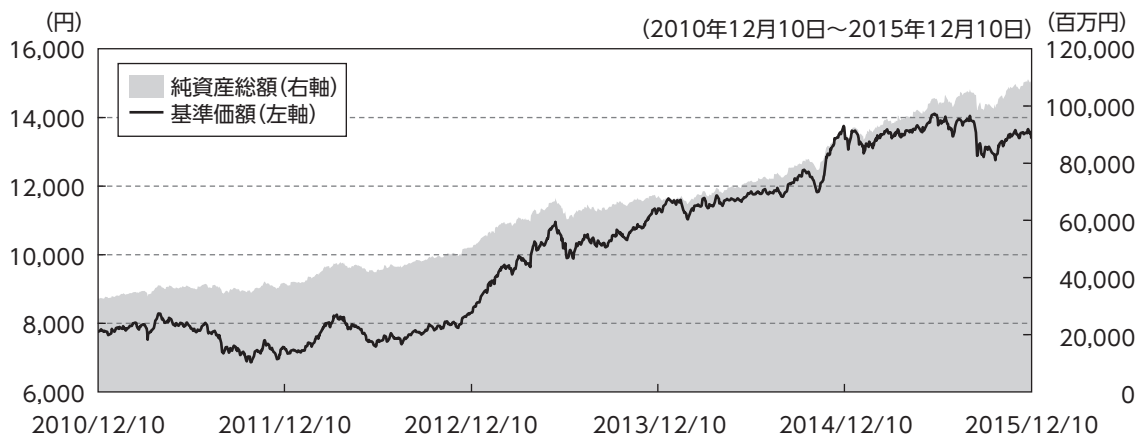
- ・投資している投資信託証券は個別の費用明細を開示していないものがあるため、費用総額を計算したものは記載することはできません。そのため、上記の比率は運用管理費率の概算であり、全ての費用が含まれた比率ではありません。
- ・投資している各投資信託証券の運用管理費率を組入比率で加重平均した、委託会社が計算した数値です。

実質的な費用負担の比率は？

投資家の皆さまの実質的な費用負担比率(年率)	0.727%
------------------------	--------

- ・当ファンドの1万口当たりの費用合計の比率と、このファンドが組み入れている投資信託証券の運用管理費率(概算)を合計したものです。
- ・当期の運用実績は、全ての費用を差し引いた後のものとなっております。

最近5年間の基準価額等の推移



	2010年12月10日 決算日	2011年12月12日 決算日	2012年12月10日 決算日	2013年12月10日 決算日	2014年12月10日 決算日	2015年12月10日 決算日
基準価額 (円)	7,753	7,226	8,309	11,347	13,561	13,406
期間分配金合計(税込) (円)	—	—	—	—	—	—
基準価額の騰落率 (%)	—	△6.8	15.0	36.6	19.5	△1.1
参考指数の騰落率 (%)	—	△5.1	15.5	35.0	19.2	△0.4
純資産総額 (百万円)	32,583	37,748	50,743	68,517	90,887	107,188

- ・当ファンドにはベンチマークがないため、投資対象資産の市場動向を説明する代表的な指数のMSCIオールカントリー・ワールド・インデックス(配当込)とパークレイズ・グローバル国債：G7インデックスを50%ずつ組み合わせた、委託会社が計算した合成指数を参考指数として記載しております。
- ・参考指数は、基準価額の反映を考慮して、2営業日前のものに、当日のわが国の対顧客電信売買仲値を利用して円換算しております。
- ・騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- ・純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。



ここをCHECK!

<参考情報>

当期末(2015年12月10日)と5年前(2010年12月10日)の比較は以下の通りです。

基準価額の騰落率(5年)	72.9%
参考指数の騰落率(5年)	75.7%
純資産総額の増加額(5年)	74,605百万円

- ・騰落率は年率換算しておりません。

投資環境

【株式市場の概況】

大規模な金融緩和政策が実施されているにも関わらず、先進国の景気が力強さを欠くなかで、中国で成長鈍化への懸念が高まったこときっかけに先行きへの不透明感が高まったことから、株式市場は全般的に力強さを欠く展開となりました。

米国の株式市場は、米国の景気は他の地域と比べると堅調なものの、利上げ観測の高まりを受けたドル高の影響により企業収益が伸び悩むなど力強さを欠く状況となったことから、方向感の無い展開となりました。

欧州の株式市場は、ギリシャの債務問題への懸念が高まり動揺する局面もあったものの、ユーロ圏で金融緩和が拡大し、それに伴ってユーロ安が進行するなかで、企業収益の改善期待が高まったこともあり、ユーロ圏の株式市場を中心に上昇しました。

日本の株式市場は、国内の景気に力強さは無いものの、欧米の株式市場よりも割安感があったことや企業の利益率の改善期待が高まったことを受けて、上昇しました。

アジア・太平洋地域の株式市場は、経済的な結び付きが強い中国で経済の減速懸念が強まったことを背景に力強さを欠く展開となりました。

新興国の株式市場は、中国経済の減速懸念が高まり、資源価格も下落基調となるなかで、景気の先行きへの悲観的な見方が広がったほか、米国で利上げ観測が高まったことを受けて資金流出への懸念が強まり、下落しました。

【国債市場の概況】

国債市場は、景気の回復ペースが緩やかなものとなり、先進国で金融緩和策環境が長期間継続するとの見方が広がったほか、経済の成長余地の低下により、物価の上昇が抑制されるとの見方が広がったことから堅調な展開となりました。

米国では、米連邦準備制度理事会(FRB)による利上げの開始時期を巡る思惑が交錯して途中まで方向感の無い展開となり、11月以降は年内に最初の利上げが行われるとの見方が強まったものの、その後の利上げペースが緩やかなものとなるとの見方に支えられ堅調な展開となりました。

ユーロ圏では、1月に欧州中央銀行(ECB)が国債の購入を含む追加の金融緩和策を打ち出したことを受けてドイツやフランスなどの主要国とイタリアやスペインなどの周縁国の国債が共に大きく上昇し、その後は高値への警戒感やギリシャの債務問題への懸念の高まりから下落する局面もあったものの、金融緩和の長期化観測が強まったことを背景に堅調な展開が継続しました。

日本国債は、世界的に物価の伸びが抑制されるなかで、国内の物価上昇観測が後退したほか、日本銀行が大量の国債購入を続けていることにより市場に流通する国債が不足するとの見方が強まったことから、堅調な展開となりました。

【為替市場の概況】

為替市場では、米国経済の状況が他の地域と比べて相対的に良好な中で、利上げが意識されたことを受けてドルが上昇基調となる一方で、欧州中央銀行(ECB)が国債の購入を含む金融緩和の拡大策を打ち出し、金利が大きく低下したことを受けてユーロが下落しました。円は物価上昇観測が後退するなかでも日本銀行が追加の金融緩和策を打ち出さず、金融緩和の拡大観測がやや後退したことから堅調な展開となり、対ドルでは円安となったものの、対ユーロでは大幅な円高となりました。

また、資源価格の下落とそれに伴う景気の低迷を受けてブラジルレアルや南アフリカランドなどの資源国通貨が大きく下落しました。

当ファンドの運用経過と結果

当期も引き続き、積立やスポット購入により受益者の皆様からお預かりした資金を利用して、定められた投資比率に従って各ファンドへの投資を行い、株式と債券の比率が乖離した局面では、比率の高まったファンドを売却し、比率の低下したファンドを購入することにより、リバランスを行いました。

当期は、株式市場が上昇基調となった前半は株式ファンドよりも債券ファンドへの投資割合が高めとなり、株式市場が下落基調となった後半は債券ファンドよりも株式ファンドへの投資割合が高めになりました。なお、株式ファンドの比率が大きく上昇した3月と、債券ファンドの比率が大きく上昇した8月には売却によるリバランスを行いました。

また、9月には、受益者の皆様にご負担頂く実質的な信託報酬率を引き下げることが目的として米国株式、欧州株式、日本株式、新興国株式、米国債券、欧州債券、日本債券に投資するファンドをより手数料の低いシェアクラスへ移行致しました。



ここをCHECK！

<参考情報>

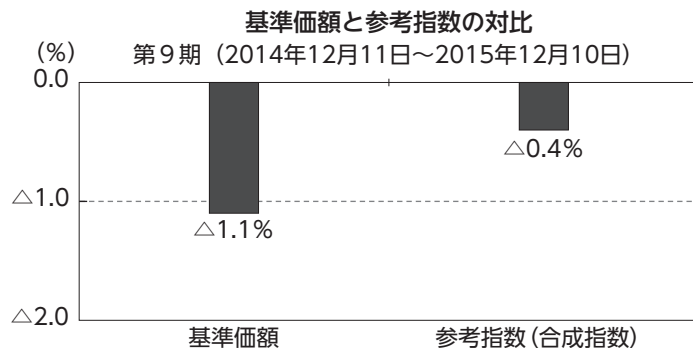
期中の売買及び取引の状況（2014年12月11日から2015年12月10日まで）

投 資 証 券			買 付 金 額	売 付 金 額
外 国	ア イ ル ラ ン ド	バンガード・ジャパン・ストック・インデックス・ファンド	千円 759,600	千円 19,922
		バンガード・ジャパン・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド	814,027	363,476
		バンガード・U.S.500ストック・インデックス・ファンド	千米ドル 37,753	千米ドル 3,879
		バンガード・パシフィック・エクスジャパン・ストック・インデックス・ファンド	2,486	413
		バンガード・エマージング・マーケット・ストック・インデックス・ファンド	8,585	579
		バンガード・U.S.・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド	41,362	－
		バンガード・ヨーロピアン・ストック・インデックス・ファンド	千ユーロ 17,007	千ユーロ 2,680
		バンガード・ユーロ・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド	35,018	8,220

- ・金額は受渡し代金です。
- ・千単位未満は切捨てて表示しております。
- ・シェアクラス移行に伴う取引は売買に含めておりません。

当ファンドのベンチマークとの差異

当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。以下のグラフは、当ファンドの基準価額と参考指数の当期の騰落率の対比です。



- ・当ファンドにはベンチマークがないため、投資対象資産の市場動向を説明する代表的な指数のMSCIオールカントリー・ワールド・インデックス (配当込) とパークレイズ・グローバル国債：G7インデックスを50%ずつ組合せた、委託会社が計算した合成指数を参考指数として記載しております。
- ・参考指数は、基準価額への反映を考慮して、2営業日前のものに、当日のわが国の対顧客電信売買仲値を利用して円換算しております。

分配金

基準価額の水準、並びに市場環境等を考慮し、当期の分配については見送りとさせていただきます。なお、留保金につきましては、元本部分と同様の運用を行って参ります。

(単位：円、1万口当たり・税引前)

項 目	第9期
	2014年12月11日～2015年12月10日
当期分配金	—
(対基準価額比率)	—
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	4,961

- ・対基準価額比率は当期分配金(税引前)の期末基準価額(分配金込)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

今後の運用方針

定められた投資比率に従い各ファンドへの投資を行います。原則として新規の流入資金を利用して、定められた投資比率に沿うように分散投資を行い、目標とする比率から一定の乖離が生じた場合はファンドの売却と購入による比率の調整を行います。

運用部長 瀬下 哲雄

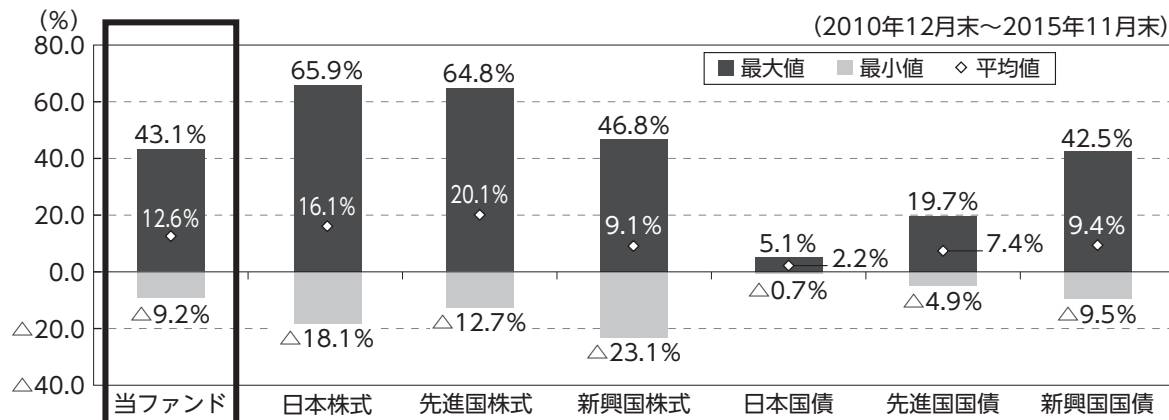
お知らせ

該当事項はありません。

当ファンドの概要

商 品 分 類	追加型投信／内外／資産複合
信 託 期 間	無期限
運 用 方 針	信託財産の長期的な成長を図ることを目的として、主として米国バンガード社が運用するインデックスファンドの中から資産規模、運用実績、コストなどの面から厳選したファンドに分散投資します。具体的な資産配分は運用状況ならびに市場状況に応じて随時変更(増減ならびに入替など)します。 原則として、為替ヘッジは行いません。
主 要 投 資 対 象	有価証券に投資する外国投資証券を投資対象とします。
運 用 方 法	当ファンドの運用は、ファンド・オブ・ファンズ方式とし、米国バンガード社が設定したインデックス型の外国投資証券への投資を通じて、世界各国の株式および債券に実質的に分散投資します。 株式と債券の基本資産配分比率は、原則として株式50%、債券50%とします。 株式、債券の地域別配分比率は、それぞれの市場時価総額を勘案して行います。
分 配 方 針	毎決算時に、基準価額水準、市況動向等を勘案して分配を行います。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないこともあります。 信託財産内に留保した利益については、運用の基本方針に基づき運用を行います。 当ファンドは、分配金再投資専用とします。収益分配金は、税金を差し引いた後、再投資されます。

(参考情報) 当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



- ・全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。
- ・2010年12月から2015年11月の5年間の各月末における1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。
- ・上記の騰落率は、直近月末から60ヶ月遡った算出結果であり決算日に対応した数字とは異なります。

《各資産クラスの指数》

日本株式：MSCI ジャパン・インデックス(配当込)
 先進国株式：MSCI ワールド・インデックス(配当込)
 新興国株式：MSCI エマージング・マーケット・インデックス(配当込)
 日本国債：パークレイズ・グローバル国債：日本インデックス
 先進国国債：パークレイズ・グローバル国債：G7インデックス
 新興国国債：パークレイズ新興市場自国通貨建て国債インデックス

- ・全ての指数は米ドル建てのものをわが国の対顧客電信売買仲値を利用して円換算しております。

- ・MSCIジャパン・インデックス(配当込)は、MSCIが開発したインデックスであり、日本の株式で構成されています。当該インデックスに関する著作権、知的財産権その他の一切の権利はMSCIに帰属します。また、MSCIは指数の内容を変更する権利及び公表を停止する権利を有しています。
- ・MSCIワールド・インデックス(配当込)は、MSCIが開発したインデックスであり、世界の先進国の株式で構成されています。当該インデックスに関する著作権、知的財産権その他の一切の権利はMSCIに帰属します。また、MSCIは指数の内容を変更する権利及び公表を停止する権利を有しています。
- ・MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込)は、MSCIが開発したインデックスであり、世界の新興国の株式で構成されています。当該インデックスに関する著作権、知的財産権その他の一切の権利はMSCIに帰属します。また、MSCIは指数の内容を変更する権利及び公表を停止する権利を有しています。
- ・MSCIオールカントリー・ワールド・インデックス(配当込)は、MSCIが開発したインデックスであり、世界の先進国および新興国の株式で構成されています。当該インデックスに関する著作権、知的財産権その他の一切の権利はMSCIに帰属します。また、MSCIは指数の内容を変更する権利及び公表を停止する権利を有しています。
- ・パークレイズ・グローバル国債：日本インデックスは、パークレイズ・バンク・ピーエルシーおよび関連会社(パークレイズ)が開発、算出、公表をおこなうインデックスであり、日本国債市場のパフォーマンスをあらわします。当該インデックスに関する知的財産権およびその他の一切の権利はパークレイズに帰属します。
- ・パークレイズ・グローバル国債：G7インデックスは、パークレイズ・バンク・ピーエルシーおよび関連会社(パークレイズ)が開発、算出、公表をおこなうインデックスであり、G7参加国の国債市場のパフォーマンスをあらわします。当該インデックスに関する知的財産権およびその他の一切の権利はパークレイズに帰属します。
- ・パークレイズ新興市場自国通貨建て国債インデックスは、パークレイズ・バンク・ピーエルシーおよび関連会社(パークレイズ)が開発、算出、公表をおこなうインデックスであり、世界の自国通貨建て新興国国債市場のパフォーマンスをあらわします。当該インデックスに関する知的財産権およびその他の一切の権利はパークレイズに帰属します。

当ファンドのデータ

当ファンドの組入資産の内容

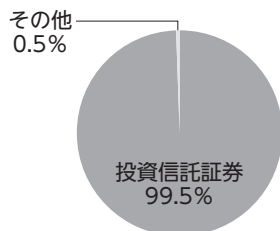
(2015年12月10日現在)

■組入ファンド

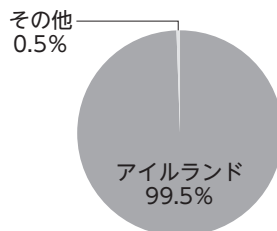
	第9期末(2015年12月10日)
	組入比率
バンガード・U.S.500ストック・インデックス・ファンド	27.3%
バンガード・U.S.・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド	23.7%
バンガード・ユーロ・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド	18.7%
バンガード・ヨーロッパ・ストック・インデックス・ファンド	11.5%
バンガード・ジャパン・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド	7.4%
バンガード・エマージング・マーケット・ストック・インデックス・ファンド	4.7%
バンガード・ジャパン・ストック・インデックス・ファンド	4.2%
バンガード・パシフィック・エクスジャパン・ストック・インデックス・ファンド	2.0%
その他(短期金融資産等)	0.5%
組入ファンド数	8銘柄

- ・組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合です。
- ・詳細は、運用報告書(全体版)に記載しております。
- ・小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

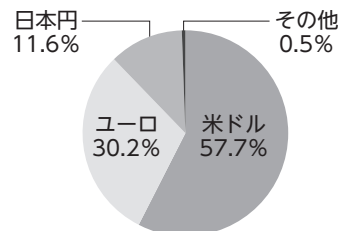
■資産別配分



■国別配分



■通貨別配分



- ・国別配分は、投資しているファンドの発行国を表示しております。



ここをCHECK!

投資対象別に分類した組入資産の状況

■資産別配分

投資対象	組入比率	ファンド数
株式を中心に投資するファンド	49.7%	5銘柄
債券を中心に投資するファンド	49.8%	3銘柄
その他(短期金融資産等)	0.5%	—
合 計	100.0%	8銘柄

■地域別配分

投資対象	組入比率	ファンド数
米国を中心に投資するファンド	51.0%	2銘柄
欧州を中心に投資するファンド	30.2%	2銘柄
日本を中心に投資するファンド	11.6%	2銘柄
太平洋(日本を除く)を中心に投資するファンド	2.0%	1銘柄
新興国を中心に投資するファンド	4.7%	1銘柄
その他(短期金融資産等)	0.5%	—
合 計	100.0%	8銘柄

- ・詳細は、「組入ファンドの概要」をご参照ください。

純資産等

項 目	第9期末
	2015年12月10日
純 資 産 総 額	107,188,829,038円
受 益 権 総 口 数	79,957,662,787口
1 万 口 当 た り 基 準 価 額	13,406円

・期中における追加設定元本額は19,455,365,759円、同解約元本額は6,517,748,952円です。



ここをCHECK！

純資産等の期首・期末の状況は以下の通りです。

	純資産総額	受益権総口数	1 万口当たり基準価額
期首	90,887,149,000円	67,020,045,980口	13,561円
期末	107,188,829,038円	79,957,662,787口	13,406円

・期中における金額ベースの追加設定額は26,358,383,498円、同一部解約額は8,793,714,543円です。
結果、当期は差し引き17,564,668,955円の資金流入となりました。

組入ファンドの概要

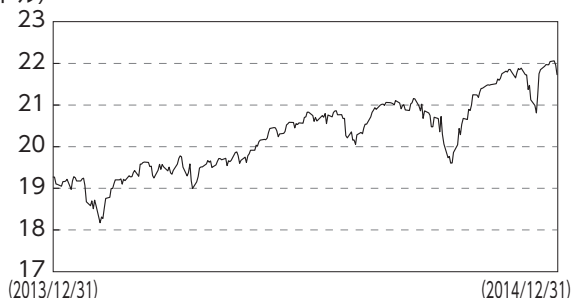
以下は当ファンドが投資対象としているバンガード社のファンドの現況です。詳細な内容につきましては運用報告書(全体版)に記載しております。

なお、以下の各項目の注記につきましては、20頁をご参照ください。

1. バンガード・U.S.500ストック・インデックス・ファンド

■基準価額の推移

(米ドル)



■費用明細

(2014年12月31日現在)

ファンド財産維持手数料率		運用管理費率 (年率) (%)
購入時	解約時	
なし	なし	0.25

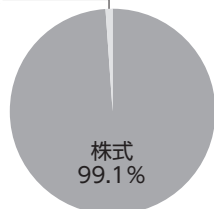
■組入上位10銘柄

(2014年12月31日現在)

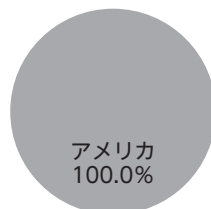
	銘柄名称	業 種	投資比率 (%)
1	Apple Inc.	情報技術	3.5
2	Exxon Mobil Corp.	エネルギー	2.1
3	Microsoft Corp.	情報技術	2.1
4	Google Inc.	情報技術	1.6
5	Johnson & Johnson	ヘルスケア	1.6
6	Berkshire Hathaway Inc.	金融	1.5
7	Wells Fargo & Co.	金融	1.4
8	General Electric Co.	資本財・サービス	1.4
9	Procter & Gamble Co.	生活必需品	1.3
10	JPMorgan Chase & Co.	金融	1.3
組入銘柄数		513銘柄	

■資産別配分

その他
0.9%



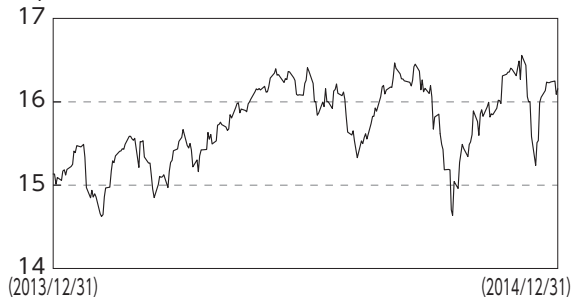
■国・地域別配分



2. バンガード・ヨーロピアン・ストック・インデックス・ファンド

■基準価額の推移

(ユーロ)



■費用明細

(2014年12月31日現在)

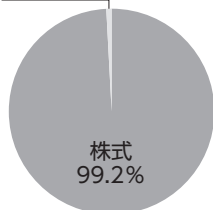
ファンド財産維持手数料率		運用管理費率 (年率) (%)
購入時	解約時	
なし	なし	0.35

■組入上位10銘柄

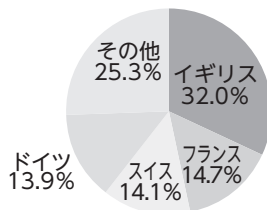
(2014年12月31日現在)

	銘柄名称	国／地域	業 種	投資比率 (%)
1	Nestle SA	スイス	生活必需品	2.9
2	Royal Dutch Shell plc	オランダ	エネルギー	2.6
3	Novartis AG	スイス	ヘルスケア	2.6
4	Roche Holding AG	スイス	ヘルスケア	2.3
5	HSBC Holdings plc	イギリス	金融	2.2
6	BP plc	イギリス	エネルギー	1.4
7	Unilever	オランダ	生活必需品	1.4
8	Bayer AG	ドイツ	ヘルスケア	1.4
9	Total SA	フランス	エネルギー	1.3
10	Sanofi	フランス	ヘルスケア	1.3
組入銘柄数		450銘柄		

■資産別配分

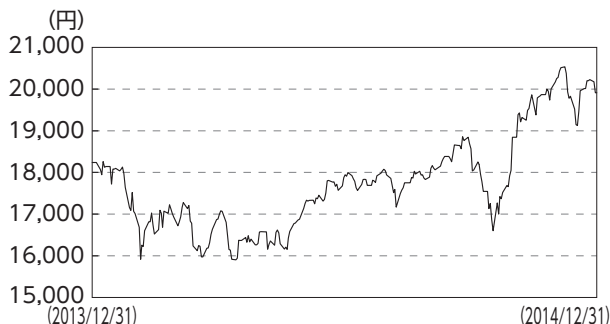
その他
0.8%

■国・地域別配分



3. バンガード・ジャパン・ストック・インデックス・ファンド

■基準価額の推移



■費用明細

(2014年12月31日現在)

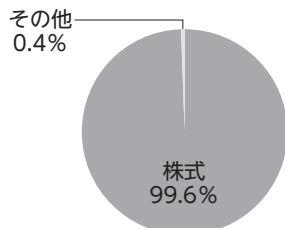
ファンド財産維持手数料率		運用管理費率 (年率) (%)
購入時	解約時	
なし	なし	0.30

■組入上位10銘柄

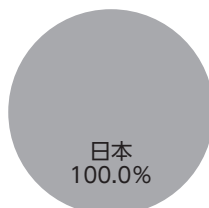
(2014年12月31日現在)

	銘柄名称	業 種	投資比率 (%)
1	トヨタ自動車(株)	一般消費財・サービス	6.5
2	(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	金融	2.7
3	ソフトバンク(株)	電気通信サービス	2.2
4	本田技研工業(株)	一般消費財・サービス	1.8
5	(株)三井住友フィナンシャルグループ	金融	1.8
6	(株)みずほフィナンシャルグループ	金融	1.5
7	KDDI(株)	電機通信サービス	1.4
8	キヤノン(株)	情報技術	1.4
9	(株)日立製作所	情報技術	1.4
10	武田薬品工業(株)	ヘルスケア	1.2
組入銘柄数		314銘柄	

■資産別配分

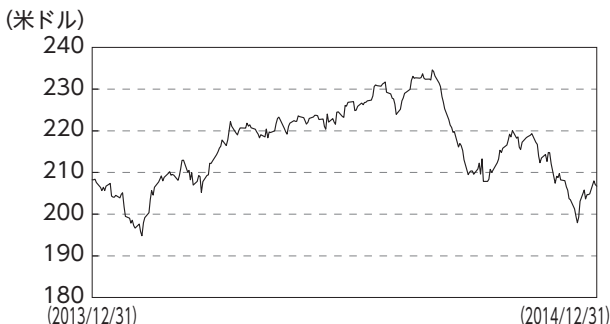


■国・地域別配分



4. バンガード・パシフィック・エクスジャパン・ストック・インデックス・ファンド

■基準価額の推移



■費用明細

(2014年12月31日現在)

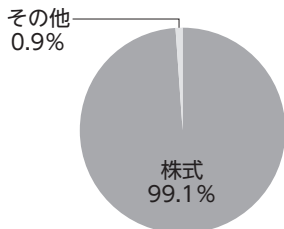
ファンド財産維持手数料率		運用管理費率 (年率) (%)
購入時	解約時	
なし	なし	0.23

■組入上位10銘柄

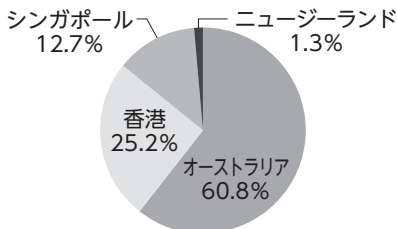
(2014年12月31日現在)

	銘柄名称	国／地域	業 種	投資比率 (%)
1	Commonwealth Bank of Australia	オーストラリア	金融	7.3
2	Westpac Banking Corp.	オーストラリア	金融	5.4
3	BHP Billiton	オーストラリア	素材	5.0
4	Australia & New Zealand Banking Group Ltd.	オーストラリア	金融	4.7
5	AIA Group Ltd.	香港	金融	4.3
6	National Australia Bank Ltd.	オーストラリア	金融	4.2
7	Wesfarmers Ltd.	オーストラリア	生活必需品	2.5
8	CSL Ltd.	オーストラリア	ヘルスケア	2.2
9	Woolworths Ltd.	オーストラリア	生活必需品	2.0
10	DBS Group Holdings Ltd.	シンガポール	金融	1.7
組入銘柄数		150銘柄		

■資産別配分

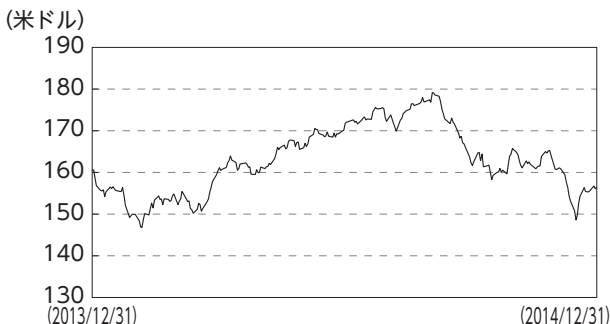


■国・地域別配分



5. バンガード・エマージング・マーケット・ストック・インデックス・ファンド

■基準価額の推移



■費用明細

(2014年12月31日現在)

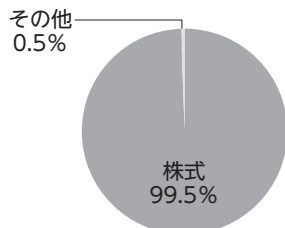
ファンド財産維持手数料率		運用管理費率 (年率) (%)
購入時	解約時	
なし	なし	0.40

■組入上位10銘柄

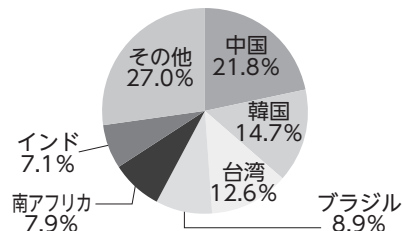
(2014年12月31日現在)

	銘柄名称	国／地域	業 種	投資比率 (%)
1	Samsung Electronics Co. Ltd.	韓国	情報技術	4.0
2	Taiwan Semiconductor Manufacturing Co. Ltd.	台湾	情報技術	2.9
3	Tencent Holdings Ltd.	中国	情報技術	2.0
4	China Mobile Ltd.	中国	電気通信サービス	1.9
5	China Construction Bank Corp.	中国	金融	1.6
6	Industrial & Commercial Bank of China Ltd.	中国	金融	1.4
7	Naspers Ltd.	南アフリカ	一般消費財・サービス	1.4
8	Bank of China Ltd.	中国	金融	1.2
9	America Movil SAB de CV	メキシコ	電気通信サービス	1.0
10	Itau Unibanco Holding SA	ブラジル	金融	0.9
組入銘柄数		835銘柄		

■資産別配分

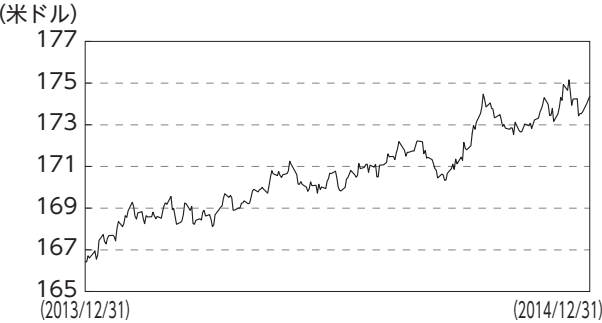


■国・地域別配分



6. バンガード・U.S.ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド

■基準価額の推移



■費用明細

(2014年12月31日現在)

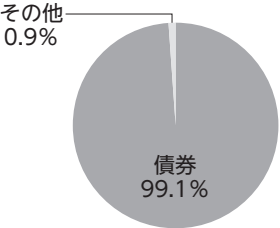
ファンド財産維持手数料率		運用管理費率 (年率) (%)
購入時	解約時	
なし	なし	0.25

■組入上位10銘柄

(2014年12月31日現在)

	銘柄名称	証券種別	利率(%)	償還年月日	投資比率(%)
1	US TREASURY N/B	国債証券	0.500	2016/11/30	1.95
2	US TREASURY N/B	国債証券	1.500	2019/11/30	1.50
3	US TREASURY N/B	国債証券	1.625	2019/8/31	1.31
4	US TREASURY N/B	国債証券	0.375	2016/1/15	1.22
5	US TREASURY N/B	国債証券	0.375	2016/10/31	1.22
6	US TREASURY N/B	国債証券	1.000	2017/9/15	1.15
7	US TREASURY N/B	国債証券	0.875	2017/11/15	1.12
8	US TREASURY N/B	国債証券	2.375	2024/8/15	1.10
9	US TREASURY N/B	国債証券	0.500	2016/9/30	1.06
10	US TREASURY N/B	国債証券	1.500	2019/5/31	1.02
組入銘柄数		348銘柄			

■資産別配分



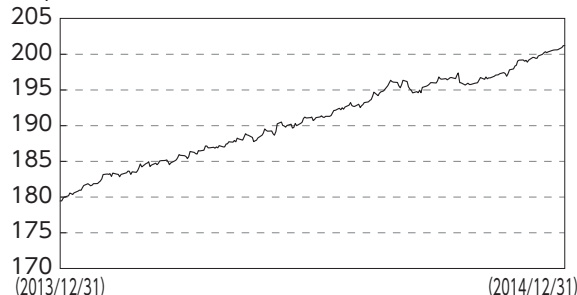
■国・地域別配分



7. バンガード・ユーロ・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド

■基準価額の推移

(ユーロ)



■費用明細

(2014年12月31日現在)

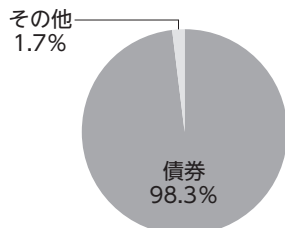
ファンド財産維持手数料率		運用管理費率 (年率) (%)
購入時	解約時	
なし	なし	0.25

■組入上位10銘柄

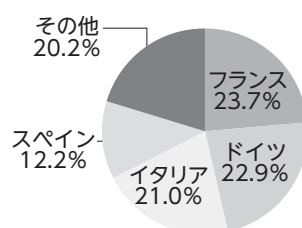
(2014年12月31日現在)

	銘柄名称	国／地域	証券種別	利率 (%)	償還年月日	投資比率 (%)
1	FEDERAL REPUBLIC OF GERMANY BOND	ドイツ	国債証券	0.250	2018/4/13	0.98
2	FRENCH REPUBLIC BOND	フランス	国債証券	3.250	2021/10/25	0.80
3	FRENCH REPUBLIC BOND	フランス	国債証券	3.000	2022/4/25	0.78
4	FRENCH REPUBLIC BOND	フランス	国債証券	1.750	2024/11/25	0.76
5	REPUBLIC OF ITALY BOND	イタリア	国債証券	1.500	2016/12/15	0.68
6	REPUBLIC OF ITALY BOND	イタリア	国債証券	3.750	2024/9/1	0.66
7	FRENCH REPUBLIC BOND	フランス	国債証券	3.750	2017/4/25	0.65
8	FRENCH REPUBLIC BOND	フランス	国債証券	3.500	2026/4/25	0.65
9	FRENCH REPUBLIC BOND	フランス	国債証券	2.750	2027/10/25	0.64
10	REPUBLIC OF ITALY BOND	イタリア	国債証券	4.750	2021/9/1	0.63
組入銘柄数		647銘柄				

■資産別配分

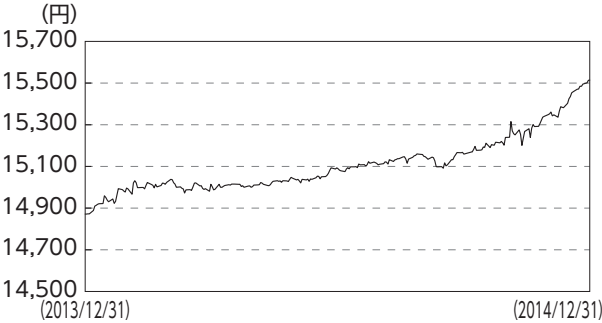


■国・地域別配分



8. バンガード・ジャパン・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド

■基準価額の推移



■費用明細

(2014年12月31日現在)

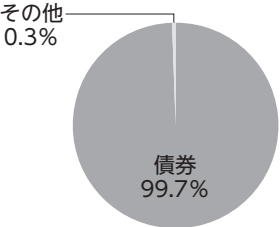
ファンド財産維持手数料率		運用管理費率 (年率) (%)
購入時	解約時	
なし	なし	0.25

■組入上位10銘柄

(2014年12月31日現在)

	銘柄名称	証券種別	利率 (%)	償還年月日	投資比率 (%)
1	第285回利付国債 (10年)	国債証券	1.700	2017/3/20	1.64
2	第117回利付国債 (5年)	国債証券	0.200	2019/3/20	1.61
3	第296回利付国債 (10年)	国債証券	1.500	2018/9/20	1.41
4	第339回利付国債 (2年)	国債証券	0.100	2016/4/15	1.30
5	第318回利付国債 (10年)	国債証券	1.000	2021/9/20	1.15
6	第119回利付国債 (5年)	国債証券	0.100	2019/6/20	1.11
7	第335回利付国債 (10年)	国債証券	0.500	2024/9/20	1.10
8	第150回利付国債 (20年)	国債証券	1.400	2034/9/20	1.08
9	第102回利付国債 (5年)	国債証券	0.300	2016/12/20	1.04
10	第114回利付国債 (5年)	国債証券	0.300	2018/9/20	0.99
組入銘柄数		332銘柄			

■資産別配分



■国・地域別配分



- ・作成時点において、入手可能な各ファンドの直前計算期間の年次報告書をもとに作成しております。
- ・費用明細に記載されている運用管理費率とは、平均純資産総額に対する運用及び管理等にかかる費用の総額の割合を示したものです。
- ・組入上位10銘柄の投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の評価金額の比率です。
- ・資産別配分は、ファンドの純資産総額に対する比率です。
- ・国・地域別配分は、ファンドの投資資産に対する比率です。
- ・通貨別配分については、開示されていないため記載しておりません。

「Vanguard」(日本語での「バンガード」を含む)及び「tall ship logo」商標は、The Vanguard Group, Inc. が有し、セゾン投信株式会社及び承認された販売会社にのみ使用許諾されたものです。

また「セゾン・バンガード・グローバルバランスファンド」は、The Vanguard Group, Inc. 及びVanguard Investments Japan Ltd. より提供、保証又は販売されるものではなく、また投資に関する助言を受けていることを表すものでもありません。

従って、The Vanguard Group, Inc. 及びVanguard Investments Japan Ltd. は当ファンド・オブ・ファンズの発行又は売買に起因するいかなる損害に対しても、責任を有しません。

本書では、各投資対象ファンドを以下の通りに省略して記載することがありますのでご了承ください。

バンガード・U.S.500ストック・インデックス・ファンド	→ U.S.500ストック及びU.S.500ストック・インデックス・ファンド
バンガード・ヨーロッパ・ストック・インデックス・ファンド	→ ヨーロピアン・ストック及びヨーロッパ・ストック・インデックス・ファンド
バンガード・ジャパン・ストック・インデックス・ファンド	→ ジャパン・ストック及びジャパン・ストック・インデックス・ファンド
バンガード・パシフィック・エクスジャパン・ストック・インデックス・ファンド	→ パシフィック・エクスジャパン・ファンド及びパシフィック・エクスジャパン・ストック・ファンド
バンガード・エマージング・マーケット・ストック・インデックス・ファンド	→ エマージング・マーケット・ストック及びエマージング・マーケット・ストック・インデックス・ファンド
バンガード・U.S.・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド	→ U.S.・ガバメント・ボンド及びU.S.・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド
バンガード・ユーロ・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド	→ ユーロ・ガバメント・ボンド及びユーロ・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド
バンガード・ジャパン・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド	→ ジャパン・ガバメント・ボンド及びジャパン・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド

TOPICS：《当社の直接販売の状況 第9期(2014年12月11日～2015年12月10日)》

○ 当期間のふりかえり

2015年 2月	セゾン投信 お客様口座数 8万口座
5月	セゾン・バンガード・グローバルバランスファンド 純資産総額1,000億円
6月	セゾン投信 お客様口座数 9万口座
9月	セゾン・バンガード・グローバルバランスファンド 実質的な信託報酬が0.05%低減
11月	セゾン投信 お客様口座数 10万口座

当期間は好調に伸びた前期間を更に上回り、大きな口座数・純資産総額の成長となりました。

○ 2015年12月10日現在 お客様口座数 101,852件(前期比+32.8%増)

お客様はこの1年間で25,169名増加し、10万件を超える口座数になりました。口座の増加数は、好調だった前期間のほぼ倍の件数になりました。(前期間末のお客様口座数76,683件、口座増加数+13,536件)

当期間の特に目立った口座開設動機は「インターネット上の情報」「雑誌、新聞、書籍」「知人・家族からの紹介」となっています。

○ お客様の特徴

年代別では「資産形成層」の30代～40代が59.0%と引き続き大きな割合を占めています。

また女性の割合が前期から2.2%増加しました。

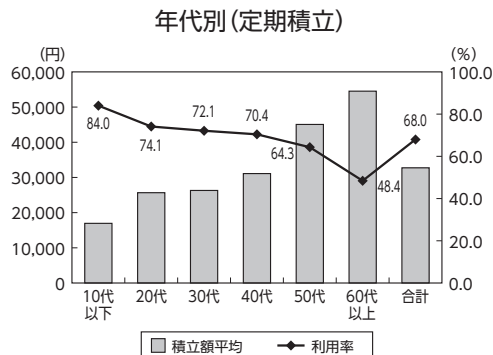
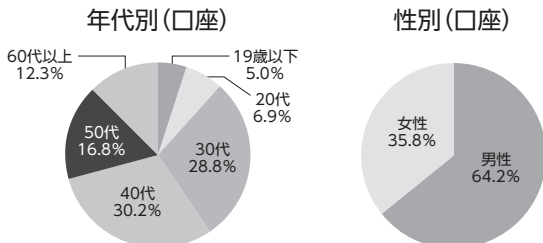
○ ファンドの設定・解約の状況(当社ファンドの合計)

当期間は、設定額が解約額を上回る純資金流入が毎月続き、開業来最多の純資金流入額(+266.5億円(金額ベース))となりました。

○ 定期積立プラン

当サービスの利用率は前期から3.6%増え68.0%となりました。口座開設の際に定期積立サービスを同時に申し込まれる方が多いこと、すでにお申込みいただいているお客様の多くがサービスを継続して活用されているため、利用率が増加しています。

・定期積立プランは、当社が運用、販売するファンド2種類のいずれか、もしくは両ファンド定期積立サービスをご利用いただいている方を対象としてデータを作成しています。また積立額平均、利用率は2015年12月時点の数値であり、積立額平均は増額月の増額分の金額を含まない平均値です。



飛躍的に成長した1年となりましたが、これもひとえに皆様のおかげと深く感謝しております。

これからも皆様の期待に応え、共に長期で成長する会社であり続けるため、一つ一つのこだわりを大切に、誠実なサービスの提供に努めてまいります。

- ・お客様の特徴や口座については、保有しているファンドの種類や有無に関係なく当社に口座を開設していただいているお客様を集計したものととなります。
- ・金額については、明記されたものを除き当社が運用、販売するファンド2種類を合計した数値となっています。